

将来は艦艇勤務希望！入隊予定者達を護衛艦「いずも」に招待

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤一空尉）は、1月10日（木）、入隊予定者4名と受験予定者1名を護衛艦「いずも」の体験航海に招待した。

当日、海上自衛隊横須賀基地内に入ると、参加者達は早速停泊中の護衛艦「いずも」に目を奪われていた。自衛隊の艦船を間近で初めて見る参加者からは「予想以上の大きさです」「かっこいいですね」と目を輝かせ、体験航海への期待を膨らませていた。

体験航海中は、各グループで飛行甲板に上がったり、艦内を案内してもらったりと非日常の時間を過ごした。入隊が決まっている参加者達は「どのような仕事を担当しているのですか」「艦での勤務で大変なことは何ですか」等、先輩自衛官に質問をぶつけていた。入隊が近づいている参加者達は、真摯に回答して下さる先輩の言葉を熱心に聞き入っていて、数ヶ月後の自分達とを重ね合わせているように見えた。また、同期となる参加者同士でSNSの連絡先を交換するなど絆を深めていた。

受験予定者からも「自衛官の皆さんが親切で、自衛隊のイメージが変わりました」と嬉しい言葉があった。

市ヶ尾募集案内所は「護衛艦「いずも」の体験航海は、入隊予定者達に良い刺激となり、海上自衛隊をより理解してもらおう貴重な時間となった。これからも不安払拭に努め、確実に入隊へと繋げていきたい」としている。



受験予定者（左から3番目）と入隊予定の4名と甲板で記念撮影

部隊見学会の参加者に、自衛官の親としての心境を語る

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 野田3海佐）は1月20日（日）、東部方面総監部が入隊予定者とその家族を対象として企画した朝霞駐屯地での方面部隊見学会を支援した。

概要説明では、自衛官の親御さんが自身の体験に基づいて入隊時の不安や教育修了時の子息・息女の成長ぶり等について話す場面もあった。

神奈川地本からは、海上自衛隊の護衛艦「たかなみ」に勤務する子息を持つ、神奈川県自衛隊家族会厚木・愛甲地区会副会長の中島恵子氏が参加をし、自身の経験をお話しされた。

司会から「ご子息を入隊させるにあたり、どんな気持ちで送り出しましたか？」という質問に対して、「人間関係を大切に、頑張ってきたね。頑張っても駄目な時は、あなたには帰ってこられる場所があるから遠慮しないで戻っておいでね」と、帰る場所があることをしっかりと伝えました。でも、教育ではとても良い同期に恵まれ、「たかなみ」での勤務もとても楽しいようで、家に帰ってくる度に笑顔で「自衛官は自分にとって天職だ」と話してくれる姿を見て、息子を自衛隊に送り出して本当に良かったです」と話され、参加した入隊予定者とその家族に安心感を与えていた。

第1施設大隊と東部方面衛生隊による装備品展示では、普段見ることのできない装備品を前に参加者達が記念写真や隊員への質問をし、隊員達がききと答える姿に参加者は自身の将来像を重ねていた様子であった。

中島氏からは、「今回、このような機会をいただき、入隊予定者とそのご家族の不安を払拭するために役立つことが出来て本当に良かったです。私自身も息子の入隊時は不安で一杯でした。でも、担当してくれた広報官の方が親身に相談に乗ってくれたので、安心して送り出すことが出来ました」と話してくれた。

厚木募集案内所は、「今後も家族会を始めとする各協力団体の支援をいただき、家族説明会などの場面を通して入隊予定者の不安を払拭し、1人でも多くの入隊予定者を獲得できるよう募集活動に励んでいきたい」としている。



野外手術システム内で心肺蘇生を体験する中島氏（左）（朝霞駐屯地）